

活動報告 常葉保育所デイキャンプ

5月18日、常葉保育所の年長児童と保護者の参加でデイキャンプが行われました。始めに、立神峡内の散策を行いました。歩き慣れている児童たちは笑顔で自然を楽しみながらの散策となりましたが、保護者たちは肩で息をしながらの散策となりました。新緑の美しい時期の中で美味しい空気をたくさん体の中に取り入れることができ、心身ともに洗われた散策となりました。その後は、みんなでカレーを作り美味しくいただきました。おかわりも食べて満足されていたようでした。

慈光保育園泥んこ体験

5月31日、慈光保育園の児童による泥んこ体験を行いました。田んぼに素足で入るといって初めてのことに抵抗があったようでしたが、かけっこなどで顔が汚れた途端に開放的になり、お風呂の様に浸かったり、カエルやアメンボを捕まえるために飛び込んだり、ワニのように四つん這いになって歩いてみたりしていました。最後の宝探しゲームでは水着が茶色になってしまうほど遊んで、みんな楽しかったという感想をいただきました。今では田んぼで遊ぶこと自体が非常に貴重な経験となっています。立神峡公園では引き続きこのような活動を行っていききたいと思います。



▲ワニさん歩き

宮原小学校代かき体験

5月31日、宮原小学校5年生による代かき体験を行いました。代かきとは田植えのために田んぼに水をいれて、土をかきならす作業のことです。素足で入る田んぼの感覚に初めは「気持ち悪い!!」という感想が多くありましたが、いざ道具の「馬鍬(まぐわ)」を使うと、馬役と馬使い役に別れて代かきを楽しんでいました。最初は嫌がっていた田んぼも楽しむための遊び場になり、体験学習と環境学習の両面で中身の濃い授業となりました。宮原小学校の田んぼの学校については今後も、随時お知らせしていきたいと思っています。

県下一斉「あそびの日」ディスクゴルフ大会

5月26日、今年で13回目となる春のディスクゴルフ大会を立神峡公園ファミリーコースで開催しました。参加者の大半を大学生が占める中、たまたま公園を訪れたファミリーが飛び入りで参加され、思わぬところに飛んでいくディスクに歓声を上げ、ほんのり汗ばみながら2ラウンドを回りました。この大会では参加賞にアイスクリームが貰えたり、賞品に「くまモン」デザインのディスクがあったりという嬉しいこといっぱいのお大会でした。

体にいいこと始めよう講座【酵素で腸内元気!無農薬梅で酵素ドリンクを作る】

今回は、環境だけではなく体のことも一緒に考えてみました。6月2日、無農薬梅を使って酵素ドリンクを作りました。2日前に公園内にある梅を収穫し、少し熟れた状態にして使用しました。青梅より熟した梅を使う方がよい酵素ができるかと参加者へ説明、砂糖と梅だけで1週間もあれば出来あがる簡単な酵素ドリンクに驚いていらっしゃる様子でした。また、お友達にも教えたいということでレシピを数枚さしあげました。まだまだ、体にいいこと始めよう講座は続いていますので、広報誌をチェック!奮ってご参加ください。



▲砂糖と梅を重ねて



▲出来上がり

平成25年度 宿泊通学ボランティアスタッフ募集のお知らせ
 毎年、町内の小学校の6年生を対象に行われる、宿泊通学体験事業が今年も8月28日から始まります。この事業は宿泊通学を通して、自己の自立と協調性や心身の成長を促すための教育の場となっています。氷川町の明日を担う子どもたちを育てるためにも、地元住民の皆さまのお力添えが必要だと思い、ボランティアスタッフの募集をさせていただくこととなりました。ご協力いただける人はご連絡ください。

お問い合わせ・お申し込み先
 立神峡公園管理組合 ☎62-1543 tategamikyou@yahoo.co.jp (8:30~17:30 火曜定休日)

町民文芸

短歌

- 咲き乱れ色あせ愛し紫陽花の
枯れ尾花なおしがみつく生
法道寺 本田 花風
- 六階の吾より更に背の高き
杉の穂先よどこまで伸びるや
北野津 宮本 末秋
- 苗代終え地起も終え五月田は
活氣つきおり田植を前に
高塚 桑原ゆき代
- ほたる草少し残して草取りす
黄色の花の愛しかりせば
吉本 高橋 澄子
- 七転び八つ起きても又転ぶ
起きてばかりじゃ疲れてしまふ
西野津 古崎スエノ
- から梅雨の庭に色づく紫陽花の
小さな命よりて大輪
南鹿野 尾崎 京子
- 山坂を越えて水汲む国を見て
蛇口ひとつの幸せを知る
吉本 橋村 正之

俳句

- 梅雨晴れのゆったり寝そべる野良猫の
足音素早く立ち去りぬ
西野津 古崎 栄子
- 日本国端から端まで新幹線
どこへ行かうと時間短縮
高塚 竹中 力
- 人生はみな迷い重ねて世を渡る
菩提の心胸にきざみて
桜ヶ丘 宮崎敬四郎
- 蜘蛛の糸顔に纏わる夕散歩
北野津 宮本 末秋
- 早乙女の植手持ちをり鳥居田に
高塚 桑原ゆき代
- 丸々と育ちゆく児や夏の月
吉本 高橋 澄子
- 二人して想い出傘や菖蒲園
西野津 古崎スエノ
- 枯れ花を摘みて緑の初夏招く
南鹿野 尾崎 京子
- 紫陽花や白より出て鮮らけし
西野津 古崎 栄子
- 花呉座に大の字になり昼の蝶
町 香山菊童子
- 爆竹の上がる学校初夏の空
町 香山セツ子

旅鴉

- 朝散歩手には竹ノ子三四本
高塚 竹中 力
- 一切を放下の嶺や青葉風
桜ヶ丘 宮崎敬四郎
- 青梅や落ちて峽庭に香を放つ
桜ヶ丘 吉田 照子
- 孫と居て笑顔かわして冷奴
町 田中 澄子
- 滝落ちて白煙のぼる岩襖
桜ヶ丘 宮崎トシ子
- 縞の合羽に三度笠
ねぐら定めぬ旅がらす
軒下三寸借り受けて
切った仁義は数知れず
吉本 橋村 正之
- 親を泣かせて飛び込んだ
やくざ渡世の義理がらみ
心ならずも刃物沙汰
長いわらじの旅に出る
泣いてすがった紅だすき
振り切る俺も辛かった
旅の枕は変つても
夜毎あの娘が夢に出る
ほとぼり冷めて帰ったら
是迄重ねた親不幸
きつと埋めるぜおふくろよ
達者で待ってな楽しみに

雅号

漱石(金之助)・鵬外(林太郎)・啄木(一)・芭蕉(金作)・清張(きよはる)・露伴(成行)・荷風(壮吉)等々、著名人の本名又は幼名を知る機会が少ない。本名では名が売れない、らしくないなどペンネームを付けた根拠はそれぞれ理由がある。では「花風」を名乗った理由は至極簡単で、物を書くのに「ファーストネーム」では味気がないが、雅号を付けるほどの力はないしなど考え、やはりそれは重荷と感した時、荷風の「荷」が重い、浮かび、じゃ、重みはないが、いっそ「花風」と付けてしまえとの若き日の遊び心が由来である。馴染んでくると不思議なものだ。なんの術もなく名乗ること身についた。戸籍に関する文書以外は全て「花風」で通用し、友人も、メディアや公共機関もこちらにしたいようになって来た。近在では広報誌の文芸欄がきっかけで、多少知られてきたようである。雅号に負けない作品(ただ、シヨートの活字制限が...)作りが重荷を背負わなければいけません。

投稿いただきました作品は、短歌・俳句それぞれ一句とします。必要な場合は、ルビを付けてください。また、確認のためお電話することもありますので、連絡先の記入をお願いします。